

学校だより



そ っ た く  
『啐 啄』



大津市立瀬田中学校 校長 奥村 公英

春とは名ばかりの寒い日が続いていますが、校庭の木々は新緑へと衣替えを始めています。

本年度、瀬田中学校は326名の新入生を迎え、全校生徒866名、30クラスでスタートしました。3月3日から24日までの臨時休校、その後の春休みを経て、4月8日、生徒の皆さんと久しぶりに出会い、その笑顔を見ると、こちらも元気になりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、新任式・始業式は校内テレビ放送で実施しました。午後には、入学式も卒業式同様、規模を縮小して開催することとなりました。入学式当日は、参加者を新入生と保護者の方々、教職員だけに絞り、入場前には新入生と保護者の方々に消毒をしてもらい、会場となる体育館の窓やドアを開放し、座席もできるだけ間隔を取り、時間も短縮するよう心がけました。



新入生の皆さんには、本校での三年間での学びを通じて、校訓である「自主・自律」の精神を育み、社会の中で心豊かにたくましく生きていくための土台づくりをしっかりと行ってほしいこと、そして、心身の健康に留意し、常に人を思いやる優しい気持ちと感謝の心を忘れず、瀬田中学校の生徒としての誇りをもって、学習や様々な活動に取り組み、健やかに成長してくれることを期待しています。

さて、4月13日から5月6日まで再度の臨時休校となりました。生徒と教師の貴重な出会いの時間や健康面を含めた生徒の状況把握の時間、学習指導など年度当初の大切な時間を大幅に縮小せざるを得なくなりました。9日と10日には分散登校とし、限られた時間の中で、健康状態等の確認をし、教科書の配布等を行い、学習に関することや今後の予定等について担任から話をしました。1年生はまだ通学経路に不安を持っていることを考慮して、同じ地域の生徒たちで登校できるよう学年を分割しない形で登校することとしました。1年生のしっかり元氣よくあいさつする姿、配布された中学校の教科書を興味深げに見ている様子に好感が持てました。2・3年生は奇数クラスと偶数クラスに分け、時間も重ならない形での登校としました。

今後の予定としては、4月中旬と下旬に学年ごとに日にちを変え、奇数クラスと偶数クラスに分けるとともに、時間も重ならない形で登校日を設定しました。登校日には、心身の健康状態の把握、学習課題の提出と次の学習課題の配布等を短時間でを行う予定です。

また、若年層の方々の中で無症状や軽症の方が、本人が気づかず感染を広めるようなことが他の都市で確認されていることから、慎重な行動をとることが求められています。そこで、生徒たちには、「不要不急の外出を控えること」や「こまめな換気と手洗いを行うこと」など感染の未然防止に努めるよう指導しているところです。

今なお終息の気配がない中で、生徒のみなさん、保護者の方々、地域の方々、教職員も不安な気持ちを持っての船出となりましたが、その一方で新しい学年、学級になり、生徒たちは期待に胸を膨らませ、新たな気持ちで学校生活をスタートさせてくれたものと思います。その気持ちを大切に、本年度も、保護者の方々や地域の方々の御支援を得ながら、生徒たちと教職員が一つになって、伝統と歴史ある瀬田中学校の歴史に新たな1ページを刻んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。